学校教育目標 自ら学び、認め合い、粘り強く取り組む子供の育成			重点目標 話を聴き合い、わかり合う子供の育成~聴き合ってわかり合おう~						
		評 価 計 画					L	学校関係者評価	改善計画
	重点目標	目標達成のための方策(取組指標)	成果指標	評価	- 1111	果 (成果○と課題△)	評価	コメント	次年度における改善策
	【学力アップ部】 学力向上に向け た学び合い(協	①主体的な学びへの授業転換をするために、毎時間の明確な目標を提示し、問題を協働的に解決する時間を設定する。 ②学習内容の確実な定着のために、類似問	①学級みんなと協力し合うことができる 子供 (学校生活アンケート3.2以上) ②毎日の授業や帯の時間、家庭学習での	3	授業で	び合い」のある学習を目指した 牧善を全ての学級で取り組ん 水曜日と金曜日にタブレットを	Α	<ul><li>・自己評価は適切である。</li><li>・「学び合い」は他者とのかかわりを持つことができとても良い。「学び合い」に向けたより一層の指導</li></ul>	・令和7年度は重点目標達成に向けた取組をさらに明確に、効果的に推進していくため、これまで【学力】【豊かな心】【体力】
重	働的な学び)の実現・授業改善	題に取り組む時間を設定する。	タブレットドリルの活用 (全単元80%以上)	3	持ち州 △一部の	帚らせ、家庭学習で活用させた。 D児童の使い方に課題がある。	A	に期待する。 ・タブレットドリルを積極的に活用 している子をよく見かけた。タブ	の3部に分けていた部会を【学力】と【非認知能力】の2部に 整理し、授業改善を中心に学力
点目		③「明治小学び合いに向けた授業づくりワークシート」を毎週作成し、日常的に授業改善を行う。	(3) 最後まで自分で考えながら字智に取り組むことができる子供 (授業チェックリスト3.2以上)	3	りワーること	が「学び合いに向けた授業づく ークシート」を繰り返し作成す とで、子供が主体的に「考える」 場面をつくる技能が高まった。	Ā	レット学習は幅広い情報に触れる ことができるので不適切な情報か ら誤学習につながらないよう、引 き続き使用方法は指導していく必	向上を強力に推し進めていく。 ・学習内容の確実な定着を図るため、ICTのさらなる活用をしながら児童の学力を個で追い、
標に		④学級の学力分析を個で行い、ターゲット となる児童を明確にして個に応じた指導 を行う。	④単元テストで60点以上取れる子供 (学級の70%以上)	3	○3学期 ともん 思・料	朝国語科は知・技、思・判・表 こ達成。算数科は知・技で達成。 判・表でわずかに未達成。 3 学 どの観点も高まった。	Α	要がある。 ・学力に応じた個別指導では、その 子の能力に合わせた指導をされて いた。	個に応じた指導を進めていく。 ・一人一人の改善課題を見取り、 学力アップ非常勤講師を活用し、 少人数学習を継続・推進する。
関土	•生徒指導4原	⑤当たり前のこと(あいさつ、掃除、時間 厳守)を、目標ごとに取組の成果として 視覚化する。 ⑥生徒指導4原則(自己存在感・共感的人	除ができている子供	3	○特に黙 おり、	然々掃除ができる子供が増えて 協力する姿が見られた。	Α	・自己評価は適切である。 ・「当たり前のこと」の指導は素晴らしい。続けてほしい。	・令和7年度は限られた人員が分散しがちであった3部会を2部会に整理し、「粘り強さ」等、子供
する	則で支え合う 学級集団づく り	間関係・目己決定の場・安全・安心な風土)を意識した学級づくり・学校づくりを行う。	(生活アンケート3.2以上)	3	があっ 経験? 成を <sup>1</sup>	が上がるほど数値が下がる傾向 った。協力して課題を解決する を増やし、共感的人間関係の育 していく。		・小学生の頃から自己決定の場を設け、自信をもたせることは大事である。	の非認知能力を向上を目指し「当 たり前のこと」に黙々と取り組 むことのできる子供の育成を強 力に推進する。
評価	【体力アップ部】 楽しみながら体 を動かす習慣を	<ul><li>⑦「わくわくタイム」で楽しい遊びを提案 し、外遊びを奨励する。</li><li>⑧体育の学習のねらいを明確にし、運動の</li></ul>	(教師の見取り 85%以上)	3	イム」	コン広場の参加等「わくわくタ の取組の効果がみられた。 受業等で体育主任の体育科授業	Α	・自己評価は適切である。 ・体力アップ、遊びが一番である。 ・限られた職員の中で工夫している	・スポコン広場の登録と参加を活用し、記録に挑戦しながら楽しく遊びの中で体力向上できるよるに環境を整さる。
	を動かす 智慎を つけ、友達と 失敗から学び 高め合う	<ul><li>圏体育の学習のねらいを明確にし、運動の楽しさを味わえる授業を行う。</li><li>⑨体育科授業で運動時間を十分に確保した</li></ul>		4	が学れ なが <sup>し</sup>	文業寺で体育主任の体育科技業 交全体の体育科の授業改善につ り、運動好きな子供が増えた。 の体育科授業で運動時間を意識	A	ところが大変素晴らしい。交換授業をしていろんな先生の目で子供を育てる大切さがわかる。 ・勉強が苦手な子も体育ではとても	うに環境を整える。 ・体育主任を中心に課題解決学習 で体育科の授業改善を推進する。 ・25分以上の運動時間を十分に確
	【特色ある教育 活動】 お互いを認め合 う態度を育てる	授業を行う。 ⑩英語活動・外国語活動・外国語科で文字 に慣れ親しみ、主体的にコミュニケーションを図るよう、相手や目的を意識させ る工夫を行う。	科授業 (週案80%以上)	4	した <u>打</u> 〇英語 授業 に必然	受業計画がなされている。 活動・外国語活動・外国語科の づくりではコミュニケーション 然性を持たせることで子供の主 な学びを作り出した。		楽しそうにしていた。 ・自己評価は適切である。 ・縦割り遊びや授業内のコミュニケーションに英語を取り入れ、楽しみながら学んでいる印象である。 ・取組を応援する。	保した体育科授業を行う。 ・明治小の子供の強みを生かし、 令和7年度も縦割り遊びや授業 で英語を取り入れ、楽しみなが ら主体的にコミュニケーション を図る子供を育成する。
いじめ防		・相手の話を受け止めて最後まで聞く姿勢 を育てるため、授業の振り返りや帰りの 会で互いのよさを認め合う場の設定	・友達の話をきちんと聞いている子供 90%	3	会・別合うない	の学級で授業の振り返りや朝の 帚りの会等で互いのよさを認め 場を設定した。支持的風土が育いる。	A	・自己評価は適切である。 ・友達のよさを認め自分も認められ ることが大切。今後も続けてほし い。	・全ての学級において授業の振り 返りや朝の会・帰りの会等で互 いのよさを認め合う場を設定し、 自尊感情の向上につなげる。
止		・児童理解会議の確実な実施(月1回)といじめ防止対策委員会による共通理解と 組織的対応の実施	・いじめ発見、対応後見守り活動3か月、 解消 100%	3	速な性対応な	の児童理解会議で組織内での迅 青報共有ができており、組織的 ができた。		・日頃の対人トラブルでも子供の言い分をしっかり聞き他者に与える 影響まで丁寧に指導されていた。	・毎月の児童理解会議やいじめ防止委員会でSC、SSW、スクールサポーター等関係機関との連携し組織対応を推進する。
不登校防		<ul> <li>・不登校傾向児童に関する情報の共有</li> <li>・予防・解消を目指す組織的な取組(チームサポート対応)の実施</li> <li>・スクールカウンセラー(SC)、スクールソーシャルワーカー(SSW)、</li> </ul>	<ul><li>・病気、家事都合以外の不登校傾向の児童の登校改善</li><li>・SC、SSW、訪問指導員と連携し、</li></ul>	3	の未然	ポかルームの活用により不登校 然防止に効果があった。また、 できた児童がいた。 Wの在校時間が増えたことで専	A	<ul><li>・自己評価は適切である。</li><li>・早期の対応がなされていた。</li><li>・ぽかぽかルームの設置は不登校解消に効果があるのでSCやSSW</li></ul>	・他の児童の視線や季節の気候に対応したぽかぽかルームの整備をさらに推進する。 ・養護教諭が特別支援コーディネ
止		訪問指導員等と毎月1回以上の情報共有 の取組を実施	欠席・遅刻しがちな子供をサポートする。 サポート体制 100%	3	門的 <sup>7</sup> きた。	な助言による効果的な対応がで	A	と連携して活用を進めてほしい。	ーターを担い、関係機関との連 携を強力に推進する。
働き方	意識改革と業務 改善	・学校閉庁時刻(20時)での退校 ・職員会議の議案の早期提案による時間の	<ul><li>・20時までに退校した職員 90%以上</li><li>・30日以上の早期計画的提案の実施率</li></ul>	3	り、増加し	以降の留守電対応等の取組によ 学校閉庁時刻に退校する職員が した。 の会議で学習支援ソフトの使用	Α	・自己評価は適切である。 ・ICTを活用した会議で効率よく 会議を実施されていた。 ・校内での業務改善や退勤できる雰	・保護者への理解を促し、保護者 配布の手紙をデータによる配布 へ移行し、さらなる業務軽減へ とつなぐ。
改革		確保とICT活用の推進	90%以上・ペーパーレス会議の実施 (毎回)	3	による	の云殿で子首又仮フントの使用 るペーパーレス会議をした。ま 回会議の議題の予告ができた。	A	囲気づくりなど、管理職を中心に 進めていってほしい。	・前年度の反省を生かした計画により業務の無駄を省く。
$\Diamond$	評価について	・【自 己 評 価】 4:目標達成(90 ・【学校関係者評価】 A:自己評価は適切			ある	2:もう少し(60%~70% C:自己評価は下方修正すべき		1:できていない(60%末 5る	· 满)

令和6年度 学校評価報告書

大牟田市立明治小学校(NO2)

		つねり千皮		- 汉叶仙秋口首			八午田印立奶佰小子仪(NOZ)
	評	価 計 画		自己評価		学校関係者評価	改善計画
領域	評価の観点	評価指標(①取組指標または②成果指標)	評価	結 果 (成果○と課題△)	評価	コメント	次年度における改善策 (案)
教育課程	星 教育指導計画の徹底した	○週計画案の量的・質的管理に関する指導助言と	3	○週計画案を使った時数管理と授業改善ワークシート	Α	・自己評価は適切である。	・週案で重点単元の進捗状況等の確認と
学習指導	∮ 推進	教室訪問・巡回による実施状況の確認		添付等の質的管理ができた。		・非常勤講師の先生と担任の先生	指導助言を細やかに行う。
	効果的な指導方法の工夫	○学力アップ、アフタースクール等の非常勤講師	4	○学力アップ等の非常勤講師と担任が情報共有を徹底	Α	で日頃から情報共有している様	・学力アップ非常勤講師等を活用し個に
		を活用した少人数学習・TTの推進		したため効果的な指導につながった。		子を見かけた。	応じた指導の充実を図る。
進路指導	望ましい勤労観等の育成	○体験活動の充実(勤労奉仕活動、ボランティア	3	○運動会や野外活動等高学年を中心に子供の活躍の場	Α	・自己評価は適切である。	・体験活動の更なる充実を図り、子供の
		体験、委員会活動、学校行事の係活動)		を増やし、望ましい勤労観等の育成の充実を図った。		・運動会等の行事を通して、目標	活躍する場所を増やしながらキャリア
	キャリア形成と自己実現	○「キャリアパスポート」を活用し、現在や将来	3	1-2-3-12-2-13-3-13-13-13-13-13-13-13-13-13-13-13-1	A		パスポートで目標設定と振り返りの計
総		に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成		用を行っている。		り返りの指導がなされていた。	画を共有するようにする。
生徒指述		○児童に関する情報の共有化とアンケート実施後	4	CONTROL STATE OFFICE STATE OF THE STATE OF T	Α	<ul><li>・自己評価は適切である。</li></ul>	・児童理解会議を中心に関係機関との連
	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	の教育相談旬間等の確実な実施		をした。気になる児童には教育相談を徹底した。		・気になる児童の状況にも配慮し	携を強化し、情報共有の更なる組織的
	積極的な生徒指道の推進	○生徒指導4原則(記存感、共動人間縣、記決定の場、安全·安		4		1	対応の充実に努める。
	復歴がる工作は寺で加速	が趾)を意識した学級・授業づくり	1	徒指導4原則の理解を深め日常の指導に生かした。	11	た。問題行動発生のリスクが高	
	問題行動への組織的対応	○管理職・担任を中心とした面談・指導と関係諸		1		まった時点で早期に組織的対応	関する研修を徹底する。
		機関との連携した組織的な対応	1	組織的対応の改善のための評価活動も実施した。	11	を検討されていた。	- PTAと連携し保護者研修を推進する。
保健管理		○保健学習、保健指導の充実	1	○年間指導計画に基づき計画的に実施した。	A	・自己評価は適切である。	・薬物乱用防止教室はPTAや地域との連携
	上   健康相等の元夫	○薬物乱用防止教育等の促進	4	○中国担告日回に至って日回印に天旭した。	A	・年間指導計画に基づき、計画的	7,011,12,112
10	学校給食の管理と食育の	○衆物癿用奶皿教育寺の促進				に健康指導や学校給食の管理が	
	子校和良の官座と良貞の    推進		4	マニュアルの見直しも実施した。	A	と されていた。	■ ・ 中度目初に誤飲等の研修を実施し、事 故防止に努める。
<i>→</i> ∧ <i>∞</i>	,	に関する全体計画、年間計画の実施	1	, _, ,	_		<ul><li>・多用なシチュエーションで避難訓練を</li></ul>
安全管理	生 女生教育の夫肔	○避難訓練、不審者対応教育、防犯教育、交通教 完然の実性	4		A	・自己評価は適切である。	
	<b>数</b> 女 大 科 本 の ウ 人 科 体	室等の実施		計画的に実施した。 ○避難訓練等の実施後は危機管理マニュアルの確認・		<ul><li>・年間指導計画に基づき P T A・</li></ul>	行い、子供の危機回避能力を高め災害
	教育活動中の安全対策	○安全点検の確実な実施(毎月始め)	4		A	_ , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	時に備える。
	7% Lds	○危機管理マニュアル等の確認と見直し	·	見直しを徹底した。		実施されていた。	・地域別下校を計画的に実施し、集団で
	登校・ト校時の安全対策		4	○PTA・地域と連携して計画的に登校時の見守り活	A		
d to Bot Lea		域との連携、地域別下校指導	<u> </u>	動等の安全対策を実施できた。	<u> </u>	今後も対策を進めてほしい。	に備える。
特別支持	受 特別支援教育推進体制	○特別な支援が必要な児童の把握と個別の指導・	4		A		・SCやSSWとの連携を強化し、推進
教育		支援計画の作成、関係機関との連携(相談室等)		援計画の作成ときめ細やかな支援につながった。	.	・通常学級にも要支援の子はいな	
	特別支援教育に関する研	○全校授業研修会の実施(個に応じた指導)及び	4	○年間指導計画に基づき計画的に実施した。	A	いか、どのような支援が有効か	・必要に応じ特別支援教育支援員と保護
	修	インクルーシブ教育システムに関する研修				常にアンテナが張られていた。	者の面談が行なえるようにする。
組織運行	対 校務分掌の機能化	○3部会・リーダー会の確実な実施(PDCAサイク	3	○水曜午後の時間を活用し計画的に実施した。	A		・次年度は3部会を2部会に整理し、「学
		パレ) 			.	・計画的に組織運営がなされてい	力」「非認知能力」の2部で重点目標達
	組織マネジメントの確立		3	○年間指導計画に基づき計画的に評価と改善を実施し	Α	た。	成を目指す。
		体的方策(PDCAサイクルを活用した見直し)		た。			・教育活動評価の項目を精選する。
評 研 付	校内研究の充実	○研究授業年1回以上を全員実施	3	○全学年で研究授業を年1回以上実施し、全員が授業	Α		・次年度は全学級で研究授業を年1回以
		○講師招聘による研修会の実施		者又は授業づくり担当で研究を推進した。	.L	・校内研修を通じて、指導につい	上実施し、全員で研究を推進する。
	キャリアステージと校務	○各職員の目標に応じた専門研修等の受講、研究	3	○各職員のキャリアステージに応じて研修や教育論文	Α	て自己研鑽を積まれていた。	・市町村立学校教員育成指標から各職員
	分掌に応じた研修の推進	発表会への参加奨励		の作成を奨励した。			の目標に応じた研修計画を作成する。
教育目標	票 教育目標達成をめざす学	○重点目標達成状況調査 (学期1回) に基づく評	3	○年間指導計画に基づき計画的に評価・改善・充実を	A	・自己評価は適切である。	・学校評価項目と職員の自己評価の一体
価   学校評値	西 校評価の実施	価・改善・充実		図った。		・計画的に進められていた。	化を図り、取組の充実を図る。
情報提信	キ 各種通信・HP等による積	○学校便り、Mボード、メール、学年・学級便り、	4	○今年度は学校代表メールやリーバーの活用による積	Α	・自己評価は適切である。	・Mボード、学校代表メール、リーバー
	極的情報発信	保健・給食・図書館便りの定期的な発行		極的な情報の収集と提供が実施できた。		・大変良い。	等のICTを活用し、情報を確実・効
	各種会合等での情報提供	○学級懇談会、PTA会合、校区まちづくり協議	4	○各会・関係機関との連携・協力体制の推進ができ	Α	・Mボードなどを利用し積極的に	果的に保護者に届ける。
	• 啓発	会等関係機関との連携・協力体制		た。		情報発信がされていた。	・定期的に関係機関との情報共有を行う。
保護者		○PTA役員会、運営委員会、PTA総会、家庭	4	○各会や家庭と効果的に協力・連携ができた。さらに	Α	-	・令和7年度は本校は市P連の会長校で
地域と		訪問、個人懇談会の実施		深めていきたい。		・協力体制はよく行き届いてい	あるため、本校のPTA役員会や他校
連携	地域住民との連携	○地域住民との連携、まち協、民児協等との連携、	4	○地域の方々と効果的に協力・連携ができた。さらに	A		の役員校と定期的に連絡を取り合い、
		行事への参加		深めていきたい。		めてほしい。	連携の充実を図る。
教育環境	党を対しては、	<ul><li>○教室、特別教室、体育館、運動場の整備、遊具、</li></ul>	4	○組織で定期的・計画的に環境整備を行い、充実して	A		・前年度の実績も踏まえ、年間を通して
整備		プール、花壇等の点検・整備の充実	1	いる。	**	・良くできている。	計画的に整備を進める。
1E //H	   校内の環境整備	○計画的な配当予算の執行による、備品購入や修	1	<ul><li>○予算の中で計画に基づき、無駄なく適切に実施した。</li></ul>	A	4	・PTAや地域交流の視点からも協力体
		理・修繕の実施	_ T		**	に環境整備が行われていた。	制を推進する。
<u> </u>			7	7 0%~9 0%) 2:もう少し(6 0%~7 0	(%)	1:できていない(60	7, - 1, - 7, - 9
✓ нт ши (С.)	= '			- 士攸工士 ベキブなス			/ひ/下11四 /

・【学校関係者評価】 A:自己評価は適切である B:自己評価は上方修正すべきである C:自己評価は下方修正すべきである